

2022年4月

「世界らん展 2022」に行ってきました

1. 季節の写真

久々の更新となってしまいました。今年度も「植物品種登録・アグリビジネス相談室」をどうぞよろしくお願いいたします。

まずは季節の写真から。こちらはニホンスイセンと思われます。スイセンは花も綺麗で香りも良いのですが、植物全体に毒があるので要注意です。(4月上旬、京都府にて撮影)



2. 「世界らん展2022 -花と緑の祭典-」レポート

2022年3月24日～30日に東京ドームシティのプリズムホールで開催されていた「世界らん展2022 -花と緑の祭典-」へ行ってきました。

入口でチケットを見せた後、エキゾチックな蘭の香りに包まれながら中へ進むとすぐに、シンビジウムやオンシジウムでいっぱいの水色のゲートが現れました。「オーキッド・ゲート2022」と名付けられた華やかなゲートの奥には、色とりどりの胡蝶蘭が天井近くまで飾られているのが見え、思わず圧倒されてしまいました。

ゲートの先は「スプリング・バレー」というエリアになっていて、蘭の原産地である熱帯を思い起こさせる空間で、水辺の苔生した木からカトレアが伸びていたかと思えば、向かい側では、胡蝶蘭の大きな生け花を観賞することができました。



写真：入口のオーキッド・ゲート2022（左）と、スプリング・バレーの展示（右）

さらに奥へ進むと、様々な品種の蘭の鉢植えが、シンビジウム、カトレア、東洋蘭など種類ごとに分けられてずらりと並んでいました。また、フラワーアレンジメントの他、近年発見された新種の野生種「パフィオペディラム ハンギアナム」やワシントン条約に関する紹介など多数の展示があり、大変興味深かったです。



写真：胡蝶蘭のコーナー（左）、独特な形の花を咲かせる「ディサ」の企画展示（右）

展示コーナーのさらに先には、蘭をはじめとした園芸植物や園芸用品、雑貨が販売されているブースが50近くもあり、たいへんな賑わいでした。中でも印象的だったのが、石原産業株式会社様のブースで出展されていた青色の胡蝶蘭 **Blue Gene** です。神秘的な青色と、凛とした佇まいに、しばらく見入ってしまいました。胡蝶蘭といえば白やピンクのイメージだけでしたが、それもそのはず、**Blue Gene** は世界で初めての青色胡蝶蘭で、15年以上もかけて研究開発された新品種ということでした。



写真：世界初の青色の胡蝶蘭 **Blue Gene**

帰りにブースで何か鉢植えを購入して行こうと色々見て回っていたのですが、狭い1Kの部屋に君子蘭の鉢を迎えたばかりであることを思い出し、思い留まりました。

君子蘭は、名前に「蘭」と付きながらもラン科ではなくヒガンバナ科なのですが、これについては、花が咲き次第、別のコラムで紹介できたらと思っています。

以上